

「キャリア教育・就職支援の取組」事例紹介 タイムテーブル

6月19日(水)	Time	6月20日(木)
敬愛大学 コンピテンシーを高めるワーク&リフレクション ～学生229名/6クラス、企業131名/14社の 混成グループでワイガヤブレスト～	9:30 10:10	山形大学 「オールやまがた」による就職支援 およびキャリア教育
聖和学園短期大学 短期大学における司書資格取得と 図書館員としての就労支援への取組み	10:30 11:10	株式会社エンカレッジ 45大学×6社による大学横断型 障害学生向けキャリア教育プラットフォーム 「家でも就活オンラインカレッジ」の取組み
株式会社クロスキャット 奨学金返済支援制度 代理返還制度の活用と 社員エンゲージメント向上への取組み	11:30 12:10	奈良先端科学技術大学院大学&株式会社アカリク 就職支援企業と連携したラウンジスペースでの キャリア支援ーアカリクラウンジの事例共有ー
名古屋産業大学 大学における必修科目の長期実践型 インターンシップの導入プロセス	13:00 13:40	名古屋経済大学 ルーブリックを活用し、PDCAサイクルを徹底した キャリア教育プログラム
三重大学 キャリア教育科目の全学生必須化に向けた施策と 全学部との調整に関する事例紹介	14:00 14:40	佐賀大学 アッパーミドル層をターゲットとした 正課外企業協働型キャリア教育～佐賀大学 キャリア・アクセラレーションプログラムの事例～
新潟大学&株式会社渡邊製作所 地元企業との連携によるキャリア教育・就職支援 ～①レクチャーとワークショップ②企業見学③就業 体験の三本柱から～	15:00 15:40	千葉経済大学(中止) 産学官連携キャリア教育の効果と評価ー「三方よし」 プログラムによる大学生の社会人イメージの変化ー
京都産業大学 京都産業大学キャリア形成支援教育科目の 改変に関する実践事例	16:00 16:40	立命館アジア太平洋大学 専門家集団のチーム力を引き出す ー構造化コミュニケーションと心理的安全性の融合ー

※ 各事例紹介の発表概要は、2ページ目、3ページ目をご覧ください。

6月19日(水)「キャリア教育・就職支援の取組」事例紹介 発表概要

Time	発表機関	タイトル
	発表概要	
9:30-10:10	敬愛大学	コンピテンシーを高めるワーク&リフレクション ～学生229名/6クラス、企業131名/14社の混成グループでワイガヤブレスト～
	PROG(コンピテンシー)で全国平均を10%余上回る評価を得た学生群のワークで特に注力した点は、リフレクションと観察とフィードバックであった。ワークでは可視化、共有と分解、視点転換を促しつつ、多様な視点、より多くの可能性に気づくことを求めた。一方で、グループワークでの言動を観察し、前回のリフレクションと合わせて、取り組み状況の背景を推察することに努め、フィードバックでは“困惑する指摘”と“やわらかな評価”で揺さぶり、考えるきっかけを狙った。ただ、年齢も生活環境も大きくは違わない学生同士のプレストに限界を感じ、立場も価値観も大きく違うであろう企業人を巻き込めば、新たな多様性ある環境を用意できると考えた。グループ内で学生と同じワークシートに取り組み、同様に順次1分トークを行うリズムの中で、両者の壁が少しでも崩れ、自由闊達な意見交換ができれば、双方に新たな気づきを得る機会となるのではないかと期待した。	
10:30-11:10	聖和学園短期大学	短期大学における司書資格取得と図書館員としての就労支援への取組み
	聖和学園短期大学・キャリア開発総合学科では、「系」と名付けた9つの専門的領域があり、その一つに「司書」がある。国家資格としての司書は在学中に取得可能である一方、職業としての司書は都道府県や市町村の図書館で働くことを指している。比較的狭き門であり、公務員となってから図書館配属を待つ者や、非正規の期間雇用であってもそれを選択する者もいる。学生の進路選択としては正規雇用が望ましいと考える立場もあるが、本が好きで図書館での仕事について一通り学び、環境の厳しさについても納得した上で、やはりその道に進みたいと強く志向する若者の熱意に対して応えていくことは、地域のニーズと時代の流れに沿った地域総合科学科という形態の本学科にとって取り組む意義のあることと考えられる。これらを踏まえ、司書として働く卒業生を取材し、その情熱の根源や仕事へのやりがい、更には大学として更に支援すべき課題を検討します。	
11:30-12:10	株式会社クロスキャット	奨学金返済支援制度 代理返還制度の活用と社員エンゲージメント向上への取組み
	当社は、他社に先駆けて2017年より奨学金返済支援制度を導入し、153名の新入社員の奨学金返済を支援してきました。制度を導入した際には、様々な方々と意見交換する機会がありましたが、利用者本人、保護者、学校、企業では、奨学金に対する見方がそれぞれ異なっており、制度に対する反応も様々でした。色々な意見を踏まえ、7年間にわたり少しずつ制度を見直してきました。今回は、7年間実施してきた奨学金返済支援制度が、当社の採用を含む人材戦略にどのように貢献してきたのかを、その他の社員エンゲージメント向上施策と合わせてご紹介させていただきます。	
13:00-13:40	名古屋産業大学	大学における必修科目の長期実践型インターンシップの導入プロセス
	大学で必修の単位化された長期インターンシップを新規に導入することは、さまざまな障壁があり困難を要します。名古屋産業大学の経営専門職学科では、3年次に長期インターンシップ(18単位)を2023年度より実施しました。導入にあたって、学内での体制整備、学生への教育効果を最大化するカリキュラム設計、企業に対するアプローチ、外部の中間支援団体との連携、インターンシップ専門人材の役割と能力、その他教員との連携、実施して見えてきた課題、実習中の学生・企業の対応などについて説明します。インターンシップ専門の研究者・実務家教員が、インターンシッププロセスの無駄を改善し、省力化したプロセスと工夫についても言及する予定です。 参考資料:『長期実践型インターンシップ入門』ミネルヴァ書房、『企業のためのインターンシップ実施マニュアル』日本能率協会マネジメントセンター	
14:00-14:40	三重大学	キャリア教育科目の全学生必須化に向けた施策と全学部との調整に関する事例紹介
	本学は、すべての学生に自律的で積極的なキャリア形成を促し、自身のキャリアを主体的に築き上げていく態度やスキルを身につけるため、2023年度からキャリア教育科目「キャリア教育入門」を全学生に必須化した。キャリアセンター所属教員と各学部教員が協働して授業内容を構築し、まだいくつかの課題は残っているものの、少ない人員で何とか必須化を実現した。その過程を報告し、今後、キャリア教育に力を入れていく他大学と共に、よりよいキャリア教育の在り方を検討したい。	
15:00-15:40	新潟大学 & 株式会社渡邊製作所	地元企業との連携によるキャリア教育・就職支援 ～①レクチャーとワークショップ②企業見学③就業体験の三本柱から～
	新潟大学は、日本貿易振興機構(ジェトロ)の紹介で、新潟地元企業(株式会社渡邊製作所)と連携するようになった。まず、渡邊製作所は2023年5月に、本学の日本人学生と外国人留学生を対象に、①レクチャーとワークショップを行った。次に、日系企業でどう働いているのかを、実際に見た後で体験してもらうため、6月に②企業見学、8月に③二日間の就業体験を行った。その結果、参加学生から「①レクチャーとワークショップで企業のことを知り、その海外展開の課題を考えて提案し、②企業見学と③就業体験により企業で働くことを深く知ることができた」と好評を得た。また、渡邊製作所からも「参加学生の素晴らしいプロモーションの考えや動画が、弊社の海外宣伝・展開の役に立った」と評価を得た。今回のような①レクチャーとワークショップ②企業見学③就業体験という三本柱から、地元企業と学生との相互理解が深められた事例を紹介します。	
16:00-16:40	京都産業大学	京都産業大学キャリア形成支援教育科目の改変に関する実践事例
	本学は令和5年度文部科学省「大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」最優秀賞を受賞した。令和4年6月に「三省合意」が改正され、翌年度よりインターンシップ科目をタイプ2「キャリア実習(職場体験型)」を基礎編、タイプ3「キャリア実習(インターンシップ実践型)」を実践編と位置付け、発展的に改変した。基礎編と実践編を組み合わせることで学生の「仕事」や「働くこと」への理解を深め、実務で活用したい専門的能力、汎用的能力の明確化に資するプログラムとした。その運営には複数の地元企業と長年にわたって連携し、地域社会を担っていく人材の産学協働による育成にも繋がっている。COOP教育の考え方にに基づき、実習活動がしっかりと教育課程に組み込まれており、受講生100名以上に対して全10クラスと少人数での授業を実施し、教員だけでなく事務職員との教職協働体制により、学生へのきめ細やかなサポートが行われていると高く評価された。	

6月20日(木)「キャリア教育・就職支援の取組」事例紹介 発表概要

Time	発表機関	タイトル
	発表概要	
9:30-10:10	山形大学	「オールやまがた」による就職支援およびキャリア教育
	本報告では、産学官が連携した「オールやまがた」による就職支援およびキャリア教育の取組を紹介しします。山形県では、大学卒業後に県外就職する20代前半の転出超過による「社会減」が問題となっています。本学就職者(学部卒)の県内定着率も3割を下回る状況が続いています。一方で、学生に県内企業の情報が十分に届いておらず、情報提供のあり方に課題があると考えます。また、就職先エリアとして、生活しやすいイメージのある都市圏を希望する学生がおり、県内で暮らす魅力も伝えていく必要があると感じています。本学では、これらの課題を踏まえ、IR部署と共同で学生データの分析を行い、様々な支援等に取り組んでいます。その中から、県内企業、自治体と連携し取組む「アライアンスネットワーク」と「自治体発見プログラム」の2事例を紹介しします。	
10:30-11:10	株式会社エンカレッジ	45大学×6社による大学横断型障害学生向けキャリア教育プラットフォーム「家でも就活オンラインカレッジ」の取り組み
	障害学生の数は、令和4年度には49672人と、ここ5年間で約1.5倍にまで増加しています。さらに、障害学生の就職率は一般学生より10ポイント以上低く、社会移行支援の必要性が高まっています。しかしながら、障害学生支援の担当者に求められる業務量は多く、単独の大学で障害学生向けのキャリア形成支援を行う余裕がなかなか生まれづらい状況が続いています。そこで、株式会社エンカレッジは、6企業、22大学とともに2023年6月に大学横断型の障害学生向けキャリア教育プラットフォーム「家でも就活オンライン カレッジ(略称:家カレ)」をスタートしました。家カレの活動は初年度を終え、参画校は45大学にまで拡大しています。本発表では、家カレで初年度に行った学生向け、支援者向け、保護者向けなど様々な取り組み内容と、活動を通じて見てきた今後の課題、展望について報告させていただきます。	
11:30-12:10	奈良先端科学技術大学院大学 & 株式会社アカリク	就職支援企業と連携したラウンジスペースでのキャリア支援 ーアカリクラウンジの事例共有ー
	昨今、就職活動・新卒採用活動において早期化・長期化が一層進んでいることは皆さんが実感していることだと思います。このような現状を踏まえ、学生が研究や勉強に励みながらも、平行してキャリアや就職活動について考えることができるスペースやコンテンツを設けていくことが必要だとキャリア支援室では考えていました。本課題解決のために就職支援企業の株式会社アカリクと協議して、本学関連施設内に学生がリラックスできるラウンジスペースとして「アカリクラウンジ」を昨年10月に開設いただきました。開設から7か月でのべ約1,660名の学生が利用しており、コーヒーを始めとする飲料の無料提供や充電スペース・フリーWi-Fiを充実させ、学生が気軽に立ち寄れる場になっています。発表では、アカリクラウンジを利用したキャリア支援コンテンツの事例を紹介していきます。	
13:00-13:40	名古屋経済大学	ルーブリックを活用し、PDCAサイクルを徹底したキャリア教育プログラム
	本学では、企業が学生に求める能力を把握する目的でアンケート調査を実施している。調査の中で、企業は学生に対し、リテラシーよりもコンピテンシーを求めていることが明らかになった。そこで、コンピテンシーの向上を目的とし、本学が導入しているPROGテストを参考にした独自の評価項目を1年次から3年次の間に5回活用したキャリア教育プログラムを設計、実施している。中でも、インターンシップを2年次以降の必修科目として設定し、インターンシップの事前事後の自己評価にPROGテストを参考にした独自の評価項目を活用するだけでなく、企業側にも同様の評価項目で学生評価を行い、その内容を学生が振り返り活用する取り組みを行っている。1年次から3年次のキャリア教育科目にて短期間でPDCAサイクルを徹底し、学生のコンピテンシー向上を図っている。本発表では、各年次のキャリア教育プログラムにおける評価項目の活用について紹介する。	
14:00-14:40	佐賀大学	アッパーミドル層をターゲットとした正課外企業協働型キャリア教育 ～佐賀大学キャリア・アクセラレーションプログラムの事例～
	佐賀大学ウェルビーイング創造センターでは、学生が就職後活躍するために必要な“社会人基礎力”の獲得や、自分自身の人生を自分のものであると認識する“キャリア・オーナーシップ”の涵養を目的として企業と協働で正課外のキャリア教育「キャリア・アクセラレーションプログラム」の実施に取り組んでいます。2021年度より始めた取り組みは2023年度末までに累計76社7団体の協力を得て、88コースを展開しました。また、約400名の学生が参加しており、佐賀大学におけるキャリア教育の大きな柱となっています。本発表では、具体的な取り組みとその成果について紹介をさせていただきます。	
15:00-15:40	千葉経済大学	産学官連携キャリア教育の効果と評価 ー「三方よし」プログラムによる大学生の社会人イメージの変化ー
	当日の機材トラブルにより発表中止	筆者が勤務する首都圏の私立単科大学では、地元企業との強固な連携を活かした産学官連携授業「キャリア教育(タイプ2)」を実施している。本事例はその教育的効果について報告するものである。このプログラムは学生(大学)・企業・行政(地元)が互いに利益を得る「三方よし」を目指して設計されており、学生は1社を自身で応募し、もう1社を斡旋される形で2日間×2社の就業体験を経験する。このような体制が、参加学生に実習先の食わず嫌いを克服させる効果があったようである。インタビュー調査からは、実習先での社会人との交流を通じて学生たちの働くことや社会参加への意識が肯定的に変化していることが明らかになった。特に、実習先での体験や事前に企業と共有された授業目標が、学生のキャリア観や職業観を変える契機となっていることが示された。
16:00-16:40	立命館アジア太平洋大学	専門家集団のチーム力を引き出す-構造化コミュニケーションと心理的安全性の融合-
	本学のキャリアオフィスは、外国籍の者や、マスコミ勤務経験者や、海外大学院で学んだ者など、多様な背景/年齢/専門性をもつカウンセラーがいる。一方で、相互連携を意図したMTG等があったものの、十分に機能が発揮できない状況が続いていた。専任職員員の異動に伴い新リーダーを迎えたことを契機に、連携の在り方を見直した。まずTeamsを活用し、メンバーのTIPSや課題感共有を気軽に行えるチャネルを準備した。「気軽に相談・発言してよい場」を整備し、日常対話を活発化することで、相互理解が進展し、相互の知見の提供が始まった。MTGは、Teamsを前提に重点課題を抽出し、創発的なアイデア出しの場とした。決定したことは、OneNote機能を活用し、事後に・誰でも確認できるようにした。結果的に、MTGが前向き・建設的な時間となり、前年踏襲施策の見直しなど、イノベーションの創出につながっている。	